

World AIDS Day in Botswana

感染率上位国のエイズデーとは？



2023年度1次隊JICA海外協力隊/
NGO Humana People to People Botswana所属

柴原 史歩

大学在学中に人道支援と国際保健に興味を持つ。卒業後に入社した日本赤十字社を退職し、昨年よりJICA海外協力隊としてボツワナ共和国にて活動中。

World AIDS Day

1988年、世界保健機関（WHO）が12月1日を「World AIDS Day（世界エイズデー）」と定めました。毎年12月1日あたりには世界レベルでのエイズの蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、世界各国でエイズに関する正しい知識等についての啓発活動が行われています。国連合同エイズ計画（UNAIDS）によって設定された今年のテーマは「Let Communities Lead（コミュニティ主導でいこう）」でした。

日本から約13,500km離れた南部アフリカに位置するボツワナでも12月1日の世界エイズデー当日は北東部にあるナタ（Nata）にて、翌週にはそれに続くかたちで、各地で関連イベントが開催されました。本記事では、その様子を現地ボツワナからお伝えします。



（写真1）オンラインで放送されたナタでのエイズデーの様子

12月1日@ナタ

世界エイズデー当日に National AIDS and Health Promotion Agency (NAPHA) と開催地区の District Health Management Team (以下、DHMT) で共催されたナタでのイベントは、テレビ・ラジオ・オンラインで全国に配信されました。私自身もオンラインで視聴しました。（写真1）

本イベントでは、UNAIDS が設定したテーマに沿って、この HIV/AIDS パンデミックを終息させるための地域社会の重要性がさらに強調されました。40年にわたる HIV 対策で一定の成果を得ているボツワナですが、検査、治療、コンドームなどの基本的なサービスへのアクセスについて、依然として居住地域や性別、年齢などによる格差はまだ存在しています。

主催者は、翌週以降に各地で開催される関連イベントでは国連機関、地域ベースの組織、保健省などと協力して、HIV 検査だけでなく様々な非感染性疾患（NCD）のスクリーニング検査が実施される予定であると述べ、さらにそのイベントへ地域社会、特に男性と若者に大勢で参加するよう呼びかけました。また、さらなる成果を上げるために現在抱えている課題についても共有し、地域社会がより主体的に HIV/AIDS 撲滅に向けて動くことを期待していました。

12月7日@マハラペ

開催場所であるマハラペは首都から車で2時間半ほど北上したところに位置する地方都市です。イベント会場であるコタ（Kgotla）と呼ばれる地域の集会所には朝9時頃から近隣住民たちが集まり始め、最終的には100人前後が来場していました。イベントはボツワナの国歌斉唱に続き、キリスト教国家であるボツワナでは恒例のお祈り、そしてコシ（Kgosi）と呼ばれる首長の開会挨拶によって始まりました。

マハラペ地域を管轄している DHMT は2023年の当該地域の新規感染者数や把握している陽性者などを発表し、改めて住民に対して予防を促す講話を行ったあと、マハラペ地区で活動している様々な団体によるプレゼンテーションが行われました。（写真2）



(写真2)マハラペのコタにて



(写真3)現地NGOの説明を受ける参加者



(写真4)モコクワナの参加者でにぎわう会場

12月8日@モコクワナ

このイベントには現地 NGO スタッフとして参加しました。マハラペからさらに北上したところにあるモコクワナですが、最寄りの中心街から車で2時間ほど離れたところにあります。地域社会に焦点を置いている今年にふさわしく、この小さな町でエイズデーイベントが行われました。(写真3)

マハラペで行われていたようなプレゼンテーションのすぐそばで、現地団体は自分たちのブースをセットします。私の団体は HIV 検査を提供していました。匿名性が重要であるため、検査用のテントを設営し、希望者に対して一人ずつ検査を行います。

他団体の各ブースでは、無料でのコンドーム配布、パンフレットを用いての

現地団体による プレゼンテーション(一部)

ボツワナ警察からは、HIV 感染の一因となっている GBV (Gender Based Violences: ジェンダーに基づく暴力) について発表されました。世界経済フォーラム (WEF) が発表した 2023 年版「ジェンダーギャップ・レポート」の男女平等度ランキングでは、日本よりも上位であったボツワナですが、生活レベルではジェンダーによる格差が目につきます。直近の統計などを共有することで主に中年～年配層の男性に向けて啓発が行われました。

DREAMS (Determined, Resilient, Empowered, AIDS-Free, Mentored and Safe) プロジェクトによる 2023 年における成果と来年以降の期待について話がありました。このプロジェクトは、ボツワナ政府と米国政府が協働して、社会的に脆弱な立場にある 9 ~ 24 歳の思春期と若い女性たちを対象にメンタリングや教育・経済支援、コンドームなどを提供することでエイズフリーの世代を目指すものです。(写真5)



(写真5)DREAMSの出展ブース

ART 治療や思春期の性交渉について、また、児童虐待などで苦しむ子どもを支援できるシステムなどの説明が行われていました。全体での講義終了後、各ブースを 1 つずつ回って案内を聞くグループや各々で興味のあるブースを訪れる人たちでにぎわいました。(写真4)

世界の HIV/AIDS

ボツワナは南部アフリカに位置し、例年世界でもトップ 5 に入るほど HIV 感染率が高く、長年、政府をはじめ現地 NGO などは様々な HIV の予防啓発に取り組んできました。ボツワナは、サハラ以南アフリカの国々で初めて HIV 治療のユニバーサル (普遍的な) アクセスを提供し、高いレベルのケアを続けている国です。HIV 検査及び ART 治療は無料

で受けることができ、主な感染経路となっている性交渉による感染を防ぐため、コンドームの配布も無料で行われています。HIV 検査およびコンドームの配布については、現地 NGO がそれぞれの担当地域でその役割を担っています。

HIV/AIDS の蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に行われている世界エイズデーのイベント。日本と感染状況に違いはありますが、一般に、日本人とボツワナ人との HIV/AIDS に関する知識には大きく差があるように感じます。日本でのイベントに足を運んでいただくことも大切ですが、世界にもさらに目を向け、どのような意識レベルで動いているのか認識することも重要なのではないかと、改めて私自身の学びとなつたイベントでした。